



「乗務員勤務制度の見直し」に踏まえ、安全・健康・ゆとり・働きの担保された乗務員職場を創る申し入れ 第2回団体交渉を行う！⑤

15. 運転士の睡眠時間を拡大するため、構内運転士への出区点検の移管を推進すること。

【回答】乗務行路については、就業規則等に基づき列車設定等様々な制約を加味し、作成していく考えである。

(組合)睡眠時間拡大と、グループ会社の技術力向上および雇用確保の両立を目的として、出区点検担当車両の委託を拡大すること。

(会社)効率性が図れれば拡大を考えているが、現段階では拡大は難しい。

16. 運転士の睡眠時間を拡大するため、車両留置箇所における手歯止めの装着位置については、移動距離が最短となる位置へと移設すること。

【回答】乗務行路については、就業規則等に基づき列車設定等様々な制約を加味し、作成していく考えである。

(組合)移動距離が短縮され睡眠時間の拡大につながることから、安全に影響のない範囲で手歯止め装着箇所の変更を検討すること。

(会社)装着箇所は事故防止の為に統一感を持たせた方が良く、駐車ブレーキ付車両を新車投入しているため移設の考えはない。現行も移動距離は大きくは変わらないと考える。

17. 運転士がゆとりを持って業務できる体制を整えるため、幕張車両センターでの出区については、睡眠時間を現行と同等以上を確保しつつ、入換信号機開通まで余裕をもった出区点検時間を確保すること。

【回答】乗務行路については、就業規則等に基づき列車設定等様々な制約を加味し、作成していく考えである。

(組合)幕張車両センター第2基地からの15両編成の出区は「忙しい」「時間が足りない」と言われている。事故防止のために余裕を持たせること。

(会社)第2基地の最も遠い場所での15両出区をモデル時間とし、労働時間は確保されている。

(組合)モデル時間そのものが僅少である。

(会社)ダイヤ改正の都度、平均値で計測するのが基本であり問題ない。

(組合)余裕が無いとの声が多く出ている。検証が必要だと申し述べる。

18. 車掌がゆとりを持って業務できる体制を整えるため、行先地において乗務前後にPOSの受信やタブレットでの確認業務を行うための労働時間Aの時間を拡大すること。

【回答】乗務行路については、就業規則等に基づき列車設定等様々な制約を加味し、作成していく考えである。

(組合)車掌はPOSの準備時間が短いため、早めに出勤して対処するのが当たり前になっている。労働時間を見直すこと。

(会社)労働時間の設定は実作業において現行も大きく乖離があるとは認識していない。車掌のPOS準備を点呼後で縛ると、個々人が余裕を持って作業できないことも想定されることから縛ることは考えていない。

(組合)今後ノリホがタブレットで報告となる。電話での報告と比べ、入力に時間を要することからその時間を勘案した労働時間とすること。

(会社)今までは列車から降りて電話で伝えていたが、今後は乗務中に改札が終わった時点で報告できるようにもなるため、労働時間の変更は考えていない。